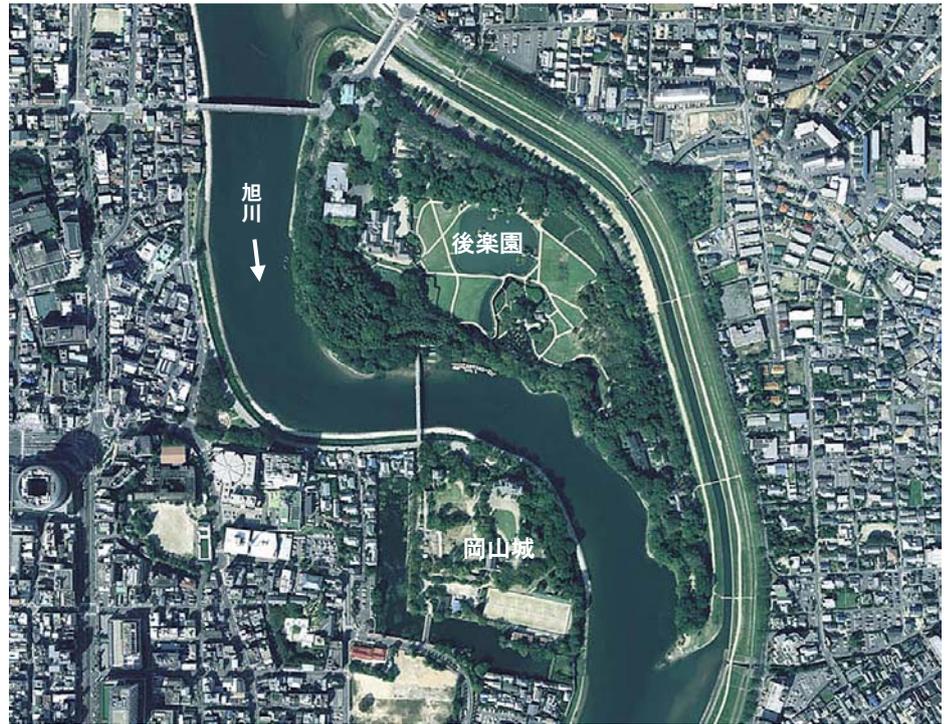


4. 教育・文化事業

①後楽園(1/2)

◆百間川の大改修を契機に 築庭された後楽園

- ・貞享4年(1687)、百間川がほぼでき、城下町への洪水被害が軽減され、城の背後の大きな河原も比較的安定して使える土地になりました。
- ・その頃、家老たちは下屋敷を持っていましたが、藩主池田綱政には下屋敷がなく、通うのに安全で便利な場所に築庭を思いついたようで、津田永忠に築庭を命じています。
- ・また、後楽園築庭工事は、百間川の大改修と同時に予定されていた沖新田開発を休止させている間の工事なので、あまりに壮大な干拓事業への懸念をしずめる時間的配慮という見方もあります。



現在の後楽園

◆城の後ろにある「御後園」(ごこうえん)

- ・元禄2年(1689)、岡山に帰った綱政は、田園風景を基調とした明るく広々とした庭がとても気に入り、手を入れながら好みの庭園に仕上げていき、やがて、城の後ろにあることから「御後園」(ごこうえん)とよばれるようになりました。
- ・元禄13年(1700)は、敷地の外形が今と近い形に整った年で、一応の完成と考える見方もあります。
- ・明治4年(1871)に後楽園と改称され、同17年に池田家から岡山県に譲渡され、今では日本を代表する庭園として知られています。



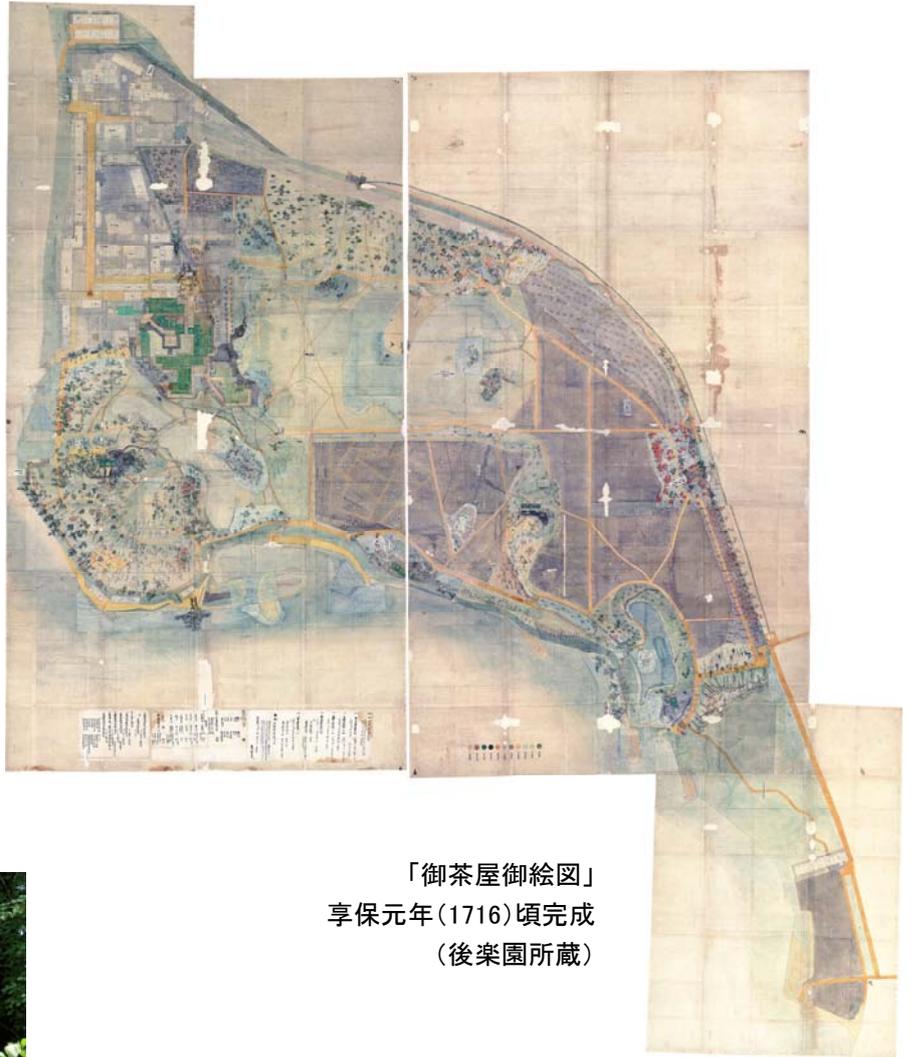
後楽園内の様子



後楽園内から岡山城の眺め

◆日本三名園の一つ後樂園

- ・後樂園には築庭当時の姿を描いた「御茶屋御絵図」が伝わっています。この絵図には改修した部分を貼紙で重ねた跡があり、後樂園の築庭を命じた池田綱政が庭に遊びながら好みで手を入れていった様子がうかがえます。
- ・後樂園は一つの完成図に基づいて作られたのではなく、綱政の要望に応じて造作が変わっているところに特徴があります。
- ・四季折々の木や花が美しい姿を見せる後樂園は、綱政や継政以後の藩主たちの好みや藩財政の事情により、幾度となく改変されました。
- ・しかし、元の状態を生かしながらの改変だったため、綱政が作らせた庭園の原形を今に受け継いでいます。



「御茶屋御絵図」
享保元年(1716)頃完成
(後樂園所蔵)



津田永忠遺績の碑

- ・今なお江戸時代の面影を残す後樂園の築庭に関わる総指揮だけでなく、藩学校や閑谷学校などの文化事業、百間川や沖新田の土木事業など多大な貢献をしたことを讃えた「津田永忠遺績の碑」が、後樂園の正門に入ってすぐの松林の奥に立っています。

- ・後樂園は、大正11年(1922)に名勝、昭和27年(1952)に文化財保護法による特別名勝に指定されました。また、金沢の「兼六園」と水戸の「偕楽園」とともに、日本三名園と呼ばれています。



後樂園:岡山市



兼六園:金沢市



偕楽園:水戸市

現存する日本最古の学校施設

- ・旧閑谷学校は、現存する庶民を対象とした学校建築物として日本最古のものとされています。また、備前焼の赤瓦が美しい「講堂」は学校建築物として唯一の国宝で、講堂以外の建築物とそれらを取り囲む石塀などの建造物も国の重要文化財の指定を受けています。
- ・平成27年に旧弘道館（茨城県）や足利学校跡（栃木県）、咸宜園跡（大分県）とともに「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」として日本遺産に認定されました。
- ・旧閑谷学校は、身分や藩内外に関わらず幅広い人々に開かれた学校として江戸時代の教育史上、極めて価値の高い学校施設として、また、実際に学校で使用された資料などが一体的に保存されていることから、歴史的価値も極めて高いといえます。



旧閑谷学校全景（公益財団法人旧閑谷学校顕彰保存会提供）

◆津田永忠が心血を注いで建てた旧閑谷学校

- ・永忠と旧閑谷学校の関わりは、寛文5年（1665）に池田光政が池田家墓所造営のための候補地選定を命じたことに始まります。光政は和意谷を墓所に、閑谷を学問所にと命じ、その造営と管理は40年以上にわたりました。
- ・現在のような堅固で壮麗な閑谷学校の建築物が完成したのは、光政の死後、綱政の時代の度重なる改修や拡充を経た元禄14年（1701）ころで、閑谷学校の建築物には「簡にして素のなかに高い精神性を宿している」といった特徴が見られます。



講堂



位置図



石塀



講堂の内部

4. 教育・文化事業 ③岡山藩主池田家墓所(和意谷、曹源寺)

・岡山藩主池田家墓所は、初代藩主の池田光政が造営した和意谷(備前市)と2代藩主の綱政が造営した曹源寺(岡山市)の2カ所に分かれています。この墓所は、近世大名墓の典型的な墓所として、津田永忠墓(和気町・奴久谷)と併せ「岡山藩主池田家墓所 附津田永忠墓」の名称で国史跡に指定されています。

和意谷

- ・光政は、池田家の菩提寺である京都妙心寺護国院の炎上を機に、領内に祖先を祀る儒教式に基づく墓所を営むことを決意し、永忠に候補地の選定を命じ、岡山から離れた山深い和意谷に墓所を造営しました。
- ・亀の形をした台石の上に大きな墓碑が載った「一の御山」は祖父輝政、「二の御山」は父利隆、「三の御山」は光政夫妻など7つの「御山」で構成され、すべて儒教式の墓地となっています。



三の御山(光政夫妻)

◆光政と永忠との強い繋がり

- ・墓所を移築するだけでなく、儒教式に従った墓所の造営や運営であったため、光政の真意を理解する家臣に任せたものと考えられます。
- ・永忠が池田家の家臣であると同時に、光政の腹心の者として信頼されていた様子をうかがわせています。



一の御山(祖父輝政)



位置図

曹源寺

- ・仏教を大切にされた綱政は、家臣の上坂外記らに命じ、倉田新田・沖新田を眼下に眺望できる操山の山麓の円山村に池田家の菩提寺を建立しました。
- ・仏殿は備前随一の規模を誇り、雄大な禅宗伽藍建築や池泉回遊式庭園などが残っています。境内に池田綱政夫妻はじめ歴代藩主とその一族の墓が並んでいます。



池田家正覚谷墓所

◆曹源寺の庭園に関わった永忠の痕跡

- ・書院の前には見事な石組が組まれています。また、書院から眺めるだけでなく、背後の山を歩いて楽しめる池泉回遊式の要素があります。
- ・創建の当初、境内の周囲に綱政の好みで桜、楓、松などが植えられ、そのうち系桜は永忠に命じて津高郡から取り寄せられました。



庭園の風景(曹源寺書院前)



位置図

4. 教育・文化事業

④吉備津彦神社

吉備津彦神社

- ・吉備津彦神社は、古代よりご神体山として崇められ、古今集にもその名がみえる「吉備の中山」の豊かな自然と神秘の宿るその麓に鎮座しています。
- ・ご祭神として祀られているのは、第10代崇神^{すじん}天皇の御代、大和朝廷の命により四道将軍として遣わされ、吉備国を平定したといわれる吉備津彦命で、昔話「桃太郎」のモデルとしても有名です。



◆津田永忠が惣奉行を務めた吉備津彦神社

- ・現在の吉備津彦神社は、古くから備前国の一宮「備前一宮」として人々に崇敬されておりましたが、社殿は金川城主の松田元成により永禄5年(1562)に焼き払われてしまいました。その後、岡山城主宇喜多秀家や小早川秀秋の時に再建が進められました。
- ・元禄9年(1696)2月、永忠は当時の岡山藩主池田綱政の命により、社殿の老朽化が進んだ吉備津彦神社の再建のため惣奉行を務め、元禄9年(1696)6月に着工し、元禄10年(1697)正月に作事を終え遷宮式を執行しました。
- ・その後、昭和5年の火災により、拝殿などは焼失してしまいましたが、昭和11年に復元されました。火災を免れた三間社流造りの本殿と、犬島の石を使用した鳥居などに、当時の面影を残しています。本殿は県の重要文化財に指定されています。



本殿(改修前)



位置図



石鳥居